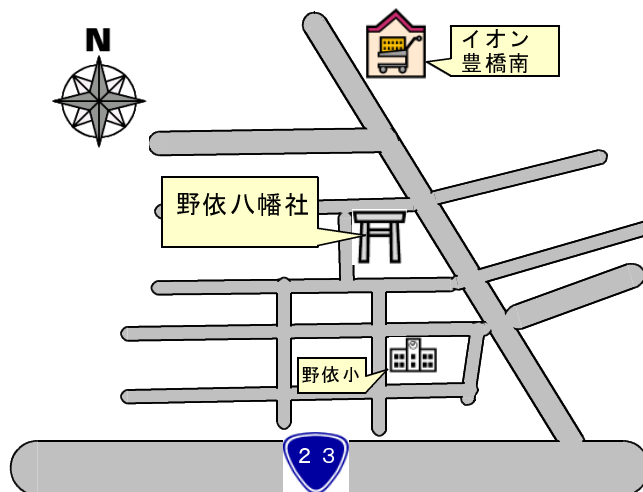


野依八幡社

野依町の中央には大きな森林があります。そこが野依八幡社（のよりはちまんしゃ）の境内（けいだい）です。野依八幡社は今から約1300年前、豊前の国（ぶぜんのくに：現在の大分県）の宇佐八幡宮（うさはちまんぐう）から伝わってきました。その当時は野依五村と言われていた野依、高塚（たかつか）、伊古部（いこべ）、植田（うえた）、沸餉（ぶっしょう）の氏神（うじがみ）としてあつく信仰（しんこう）されていました。現在はモデル神社に指定され、今後より盛り上がっていくことを期待された、地域の模範（もはん）となる神社だと言えます。

野依八幡社では、2月と10月の第2日曜日に大きなお祭りが行われます。もち投げが行われたり、屋台が出たりして、大人から子どもまで楽しめるお祭りになっています。

社（やしろ）の前には大きな桜の木があります。それがシダレザクラの木です。毎年3月の終わりから4月の始めにかけて、ソメイヨシノなどの桜の木よりも少し早く咲いています。美しいシダレザクラを見ようと、多くの人が野依八幡社に集まって、とてもにぎやかです。



みんなも
シダレザクラ
を見てみよう！



参考資料
豊橋校区史 39 野依